

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●菊花賞はフィエールマンが史上最少キャリアで優勝

10月21日(日)に行われた菊花賞(G I)ではフィエールマン(牡3歳/美浦・手塚貴久厩舎)が優勝しました。同馬はここまで3戦2勝の成績で、キャリア4戦目での菊花賞制覇は、1946年アヅマライ(菊花賞まで5戦2勝)、1987年サクラスターオー(同5戦3勝)の記録を更新する史上最少キャリアでの勝利。3か月以上の休養明けで菊花賞を制したのもサクラスターオー以来31年ぶりで、関東馬の菊花賞勝利は2001年のマンハッタンカフェ以来17年ぶりのこととなりました。

●ベストウォーリアらの競走馬登録抹消

2017年阪急杯(G III)の勝ち馬トーキングドラム(牡8歳/美浦・斎藤誠厩舎)は、10月14日(日)に行われた信越Sの競走中に左肩甲骨骨折を発症、予後不良となり、同日付で競走馬登録を抹消されました。JRA通算成績は32戦5勝でした。2014年・2015年のマイルチャンピオンシップ南部杯(Jpn I)を連覇したベストウォーリア(牡8歳/栗東・石坂正厩舎)は、10月19日(金)付で競走馬登録を抹消されました。JRA通算成績19戦7勝・地方17戦2勝で、今後は北海道新冠町の優駿スタリオンステーションで種牡馬となる予定です。2013年みやこS(G III)の勝ち馬ブライトライン(牡9歳/栗東・鯨島一步厩舎)は、10月20日(土)に行われた室町Sの競走中に左第1指関節脱臼を発症、予後不良となり、同日付で競走馬登録を抹消されました。

JRA通算成績42戦7勝・地方2戦0勝・海外1戦0勝でした。2015年フェアリーS(G III)の勝ち馬ノットフォーマル(牝6歳/美浦・中野栄治厩舎)は、10月24日(水)付で競走馬登録を抹消されました。

JRA通算成績33戦3勝・地方2戦0勝で、今後は北海道新ひだか町の千代田牧場で繁殖馬となる予定です。

●ソウルスターリングが故障

2017年優駿牝馬(オークス/G I)などの勝ち馬ソウルスターリング(牝4歳/美浦・藤沢和雄厩舎)は、左中間手根骨骨折を発症していることが判明しました。今後3か月以上の休養を要する見込みです。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●京都のJBC3競走にキタサンミカツキら11頭の地方馬が登録

11月4日に京都で実施されるJBCクラシック(Jpn I)にはカツゲキキトキキ(愛知)、シュテルングランツ(浦和)、タガノゴールド(兵庫)、JBCスプリント(Jpn I)にはアンサンプルライフ(浦和)、キタサンミカツキ(船橋)、ノブワイルド(浦和)、ラブバレット(岩手)、JBCレディスクラシック(Jpn I)にはジュエルクイーン(大井)、ディアマルコ(高知)、ブランシェクール(大井)、ラインハート(大井)が登録しました。

●ハクサンフラワーが金沢プリンセスC圧勝【各地の主要2歳重賞】

金沢プリンセスC(10月7日、金沢、1400m、牝馬)は、逃げたハクサンフラワー(父シルポート)が後続を5馬身引き離し、単勝1.8倍の支持に応えました。サンライズC(10月10日、門別、1800m)は、2番手から直線半ばで先頭に立った7番人気の伏兵マイコート(牡、父ロジユニヴァース)が、1番人気のウィンターフェルとの競り合いをハナ差制しています。

●トイガーらが参戦、11月1日の北海道2歳優駿(門別)

北海道2歳優駿(Jpn III、11月1日、門別、1800m)は、JRA勢はトイガー、イルジオーネ、テイエムアカリオー、ミヤケという序列になりますが、いずれも1勝馬だけに、地元ウィンターフェル、イッキトウセン、イグナシオドーロらが強敵となりそうです。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1コーフィールドC~ベストソリューションが制す

10月20日にオーストラリアのコーフィールド競馬場で行われたG1コーフィールドC(3歳上、芝2400m)はイギリスからの遠征馬ベストソリューション(牡4歳=現地表記では牡5歳、父コディアック)が最終コーナーで先頭に立つと、地元のホームズマンの追い上げを0.1馬身差退けて優勝。G1ベルリン大賞、G1バーデン大賞(ともに芝2400m)に続いてのG1・3連勝としました。P.コスグレイヴ騎手は初制覇、S.ピン・スルー調教師は2008年のオールザグッド以来の2勝目です。なお、日本から参戦したチェスナットコートは13着、ソールインパクトは14着でした。

●G1英チャンピオンS~クラックスマンが連覇達成

イギリスのアスコット競馬場で10月20日に行われたG1英チャンピオンS(3歳上、芝9⁰⁰/₁₆212⁰⁰)はクラックスマン(牡4歳、父フランケル)がG1キングジョージVI世&クイーンエリザベスS2着のクリスタルオーシャンに6馬身差をつけて圧勝。このレース連覇を果たしました。クラックスマンは、ほかにG1ガネー賞(芝2100m)とG1コロネーションC(芝12⁰⁰/₁₆6⁰⁰)などにも勝っています。L.デットーリ騎手とJ.ゴスデン調教師はともにこのレース連覇で2勝目です。